

『三言二拍』中の「離合集散」物語について

— プロップの「機能」説による分析の試み

「Dispersed-Assemble」From *SanYan* (三言) and *ErPai* (二拍)

— Propp's “Function” theory

黄 暉

目録

初めに

一、プロップの説について

- 1、昔話の形態学なる概念について
- 2、昔話の構造 31 の機能とその符号
- 3、七種の人物とその行動領域

二、「三言二拍」中の「離合集散」物語

- 1、「離合集散」物語及び小道具
- 2、「離合集散」物語の創作年代

三、「離合集散」物語の構造分析

- 1、闘い／勝利類型
- 2、一つの発端と二つの行程から成り、敵対者との闘い／勝利を経て展開される類型
- 3、難題／解決類型
— 小方らの説を導入
- 4、形異義の現象 — 贈与者による試練／難題
- 5、小道具と主人公の結び方
- 6、小道具の叙事機能 — 予説

結び

初めに

中国では、遅くとも宋代から、街頭などで歴史や伝説に材をとった物語の講釈がおこなわれていた。後に、その形式を模して様々な読まれることを目的とした作品が書かれるようになり、その中でも短篇の作品がかなりの数を占めた。明代末期になると、こうした短篇（以下、魯迅の定義に従い「話本」と呼ぶ）のアンソロジーとして馮夢龍^(注1)が『喻世明言』、『警世通言』、『醒世恒言』を、凌濛初^(注2)が『初刻拍案驚奇』、『二刻拍案驚奇』（いずれも全40巻）を編集した。この五書は書名中の文字から「三言二拍」と総称された。長い時間をかけて完成されたと思われるこれらの作品群において、ストーリーの細部や人物設定において違いがあるものの、構造上ある共通の特徴を持つ作品が多くあることに気付いた。

その特徴とは、恩愛で結ばれた夫妻、或は相愛する男女が、突然外来の悪い力によって、一時離れてしまうことを余儀なくされるが、後にある人物が登場して魔法のような力を提供し、主人公はその助力を受け入れて、再び二人は一緒になる。そして、その大団円の際には、必ず本稿で「小道具」^(注3)と呼ぶところのもの、言い換えれば「証拠品」のような物を、それぞれが出して照合する、或は、一方が提示して、相手方がこれを承認する。このようなタイプの物語は本稿において「離合集散」物語と呼ぶことにする。

このような物語を分析するに当たり、「三言二拍」の多くの作品の来源が民間の説話にあることから、本稿においてはロシアの民俗学者であるプロップの『昔話の形態学』において明らかにされた、ロシアの民間故事を素材とする、31の機能を有する登場人物の行為という枠組みを用いることにした。以下、本稿では、プロップの説に基づき、「離合集散」物語の登場人物の行為について分析を行う。

一、プロップの説について

ウラジーミル・プロップ (Vladimir Iakovlevich Propp. 1895～1970) は、ソビエト連邦の昔話研究家で、後に言うところの物語の構造分析を昔話に対して行ったものである。『昔話の形態学』(Morphology of the Folktale) は、一九二八年に出版されたときには、全く反響を呼ばなかったが、ちょうど三十年後の一九五八年に英訳が出版されると、構造主義の先駆的仕事として注目を集め、数多くの言語に翻訳された。

1、昔話の形態学なる概念について

プロップはその作の序で、次のように述べている。

形態学なる語が指し示すのは、形に関する学です。植物学で、形態学なる用語のもとに理解されているのは、植物のさまざまな構造部分、構造部分相互の間関係、構造部分と全体との関係に関わる学です。つまり、植物の構造に関する学です。ところで、昔話の形態学なる概念用語が成り立ちうるものかどうか。この点についてはこれまで誰も考えてみませんでした。しかし、民間説話の領域においても、有機体に関してその形態学が成り立ちうるのとまったく同じように、昔話の形を検討し、その構造上のきまりを確立する形態学が成立可能です。^(注4)

また、「機能」については以下のように定義している。

機能という用語を登場人物の行為でしかも、筋＝出来事全体の展開過程にとって、当の行為が持ちうる意味という観点から規定された登場人物の行為、というふうに解することにします。^(注5)

更に機能と物語の構造について、プロップは以下のように定義している。

- I、昔話の恒常的な不変の要素となっているのは、登場人物たちの機能である。その際、これらの機能がどの人物によって、また、どのような仕方で実現されるかは、関与性を持たない。これらの機能が昔話の根本的な構成成分である。
- II、魔法昔話に認められる機能の数は限られている。
- III、機能の継起順序は常に同一である。
- IV、あらゆる魔法昔話はその構造の点では、単一の類型に属する。^(注6)

2、昔話の構造 31 の機能とその符号

- [0] 導入の状況 (α)
- [1] 留守もしくは閉じ込め (β)
- [2] 禁止 (γ)
- [3] 違反 (δ)
- [4] 探し出し (ϵ)
- [5] 情報漏洩 (ζ)
- [6] 謀略 (η)
- [7] 幫助 (Θ)
- [8] 加害 (A)
- [8a] 欠如 (a)
- [9] 仲介或はつなぎの階段 (B)
- [10] 対抗開始 (C)
- [11] 出立 (\uparrow)
- [12] 贈与者の第一の機能 (D)
- [13] 主人公の反応 (E)
- [14] 呪具の贈与・獲得 (F)
- [15] 二つの国の空間移動 (G)
- [16] 闘い (H)

- [17] 標づけ (J)
- [18] 勝利 (I)
- [19] 不幸・欠如の解消 (K)
- [20] 帰還 (↓)
- [21] 追跡 (Pr)
- [22] 救助 (Rs)
- [23] 気づかれざる到着 (O)
- [24] 不当な要求 (L)
- [25] 難題 (M)
- [26] 解決 (N)
- [27] 発見・認識 (Q)
- [28] 正体露見 (Ex)
- [29] 変身 (T)
- [30] 処罰 (U)
- [31] 結婚・即位 (W)

以上 31 の機能を線条的に並べてゆくと、一篇の首尾一貫した話となる。

(注7)

3、七種の人物とその行動領域

プロップは百例の昔話を分析した上で、登場人物の活動領域 (spheres of action) によって、七種の人物がいると論じている。彼らは、敵対者 (加害者)、贈与者、助力者、王女 (探し求められる者) とその父、派遣者 (送り出す者)、主人公、ニセ主人公である。

さらに、今挙げた活動領域において、個々の登場人物と役割との関係は三つの場合がある。一人の人物に一つの役割；一人の人物複数の役割；数人が一つの役を果たす、の3タイプである。^(注8)

二、「三言二拍」中の「離散集合」物語

1、「離合集散」物語及びその小道具

「三言二拍」中には、「離合集散」物語の特徴を持つ作品は以下の通りである。なお、議論のため、使用されている小道具を合わせて示す。

- ①『喻世明言』卷一「蔣興哥重會珍珠衫」：(小道具) 珍珠衫
- ②『醒世恒言』卷十九「白玉娘忍苦成夫」：(小道具) 妻の繡鞋と旦那の舊履
- ③『警世通言』卷一一「蘇知縣羅衫再合」：(小道具) 羅衫
- ④『警世通言』卷一二「范鰲兒雙鏡重圓」：(小道具) 鴛鴦宝鏡
- ⑤『警世通言』卷二二「宋小官團圓破氈笠」：(小道具) 破氈笠
- ⑥『警世通言』卷二四「玉堂春落難逢夫」：(小道具) 鏡と金銀首飾器皿
- ⑦『警世通言』卷三二「杜十娘怒沉百寶箱」：(小道具) 百寶箱
- ⑧『二刻拍案驚奇』卷三「權學士權認遠鄉姑 白孺人白嫁親生女」：(小道具) 紫金鈿盒
- ⑨『二刻拍案驚奇』卷九「莽兒郎驚散新鶯燕 扶梅香認合玉蟾蜍」：(小道具) 玉蟾蜍

以上の九つの物語はその小道具はそれぞれ異なるが、物語プロットの構造の上で非常に重要な役割を果たしている。このような物語は「三言二拍」の中に、まだまだあるが、今回は以上の九つの物語、例として挙げて、プロップの説を用いて別々に分析を行う。

2、「離散集合」物語の創作年代

このタイプの物語の創作年代については、以下のような研究がある。

- ①尾上兼英「明代白話小説ノート ― 短編小説・「三言」(1) ―

『東洋文化研究所紀要』（通号 44. p.1～68 1967 年）
『白玉娘忍苦成夫』、『杜十娘怒沉百寶箱』は馮夢龍の作ではないかと推定する。

②小川陽一『三言成立論考集録：（上）古今小説の部』

（『山形大學人文科學』8(4). p.81～122. 1977 年）

『三言成立論考集録—中—警世通言の部—前—』

（『東北大学教養部紀要』（通号 31）. p.164～143. 1979）

『蔣興哥重會珍珠衫』、『宋小官團圓破氈笠』、『玉堂春落難逢夫』は馮夢龍の作ではないかと推定する。なお、『蘇知縣羅衫再合』は明人の作、『范鰍兒雙鏡重圓』は宋人の作とする。

明・王同軌、字行甫（湖広黄州府、現湖北省黄州市の人）『耳談類増』（呂友仁、孫順森校点。中州古籍出版社。1994 年。）巻八の「武騎附金三」條と『宋小官團圓破氈笠』の内容はほぼ同じ。

③譚正壁『三言二拍資料上・下』（上海古籍 1985 年第 8 回印刷）

『權學士權認遠鄉姑 白孺人白嫁親生女』は明人の作とする（p.766～770）。また、『莽兒郎驚散新鶯燕 扶梅香認合玉蟾蜍』は『太平広記』巻 486「無双伝」、『近世戯曲史』の第九章の第二節に引く「素梅玉蟾」、『明代雜劇全目』巻二「蟾蜍佳偶」などとほぼ同じ（p.790～795）。

ここでは「三言二拍」の来源が、宋～明の各時代にまたがっていることを確認するにとどめる。なお、現在も「三言二拍」の来源についての研究が日本で盛んに行われている。荒木猛の『短編白話小説における新旧諸相の弁別：「三言」中の固有名詞を中心として』（『集刊東洋學』37 p.48～68, 1977）；佐藤晴彦は『神戸外大論叢』（参考文献後附）で上に述べたことについて続けて各論を発表されているが、本稿では議論と直接係わらないので省略する。

三、「離合集散」物語の構造分析

プロップは百例のロシア民話を分析した上に、八つの類型があると指摘されている。それらは、

- I 闘い／勝利 (H/I) 類型；
- II 難題／解決 (M/N) 類型；
- III 闘い／勝利、難題／解決も含まない類型；
- IV 一つの発端を持つ二つの行程から成る話で、敵対者との闘い／勝利を経て展開される類型；
- V 二つの行程から成る話の分析、第一の行程は「闘い」／「勝利」(H/I)の機能を経て展開し、第二の行程は「難題」／「解決」を経て展開する類型；
- VI 四つの行程から成る話の類型；
- VII 絡み合った五つの行程から成る複雑な話の類型；
- VIII 二人の主人公を含む話の類型；

(注9) である。

本稿で挙げた九つの「離合集散」物語には、その類型が以下のように分けられる。

- I 闘い／勝利 (M/I) 類型の範囲にいるものは、『杜十娘怒沉百寶箱』と『玉堂春落難逢夫』である。
- II 一つの発端を持つ二つの行程から成る話で、敵対者との闘い／勝利を経て展開される類型の範囲にいるものは、『蘇知縣羅衫再合』と『蔣興哥重會珍珠衫』である。
- III 二つの行程から成る話の分析、第一の行程は「闘い」／「勝利」(H/I)の機能を経て展開し、第二の行程は「難題」／「解決」を経て展開する類型の範囲にいるものは、『宋小官團圓破氈笠』と『白玉娘忍』

苦成夫』と『範鯁兒雙鏡重圓』である。

- IV 難題／解決 (M/N) 類型の範囲にいるものは、『權學士權認遠鄉姑白孺人白嫁親生女』と『莽兒郎驚散新鶯燕 扶梅香認合玉蟾蜍』である。

1、闘い／勝利 (H/I) 類型

プロップは上記類型について、「闘い／勝利 (H/I)」という一対の機能を含む凡ての話の図式を残らず書き揃え、さらに、「闘い」を経ずに単に敵対者を殺すという場合をもこれに書き加える、と述べられている。彼の説によって、『杜十娘怒沉百寶箱』と『玉堂春落難逢夫』から、該当する場面を見て行こう。

- ①『杜十娘怒沉百寶箱』には、その場面が三度現れる。

I、杜十娘は一人で鴛母(妓楼の女将)との闘いと勝利(一度目 H1/I1)

李公子が金を持っている時、鴛母は毎日ニコニコして接していた。一年のうちに、公子は金をその妓楼で使ってしまった。すると、鴛母は公子を妓楼から追い出し、それに、十娘には他の客を接待しなさいと命令した。彼女が鴛母の指示に従わなかったため、鴛母と激しく争論した。鴛母は考えが不十分であるから、「十日間以内に三百両銀子を出せば、遊女の身請けができる」と承諾した。そのため、十娘と公子が会えなくなる、ということとはなくなった。

一度目の「闘いと勝利」は杜十娘が勝った。一度目の欠如 K4 — 二人が会えないこと — が解消した^(注10)。

II、杜十娘と李甲は力をあわせて、鴛母との闘いに勝利(二度目 H/I)

李公子にとって、三百両の銀はなかなか容易なことではないから、六日間を過ぎてても、まだ一両もなかった。そこで、十娘は自分の貯金から半分を出して、公子に渡して、残りの部分は公子の友人である柳遇春に協力してもらって、やっと三百両銀子が公子の手に入った。そして、鴛母に渡した。十娘の遊女身分がそこで終わった。公子と正式な夫婦になった。即ち、「従良」という希望は現実になった。

二度目の「闘いと勝利」は杜十娘と李甲が勝った。二度目の欠如 K4 — 杜十娘の遊女身分 — を解消した。

Ⅲ、杜十娘は再び一人で李公子と孫富との闘いと勝利（三度目 H/I）

李公子は十娘を連れて故郷へ戻る途中で、商人である孫富と出会い、孫富は十娘の美貌を羨ましくなり、千金で李公子と彼女を交換したい、と公子に伝えた。公子は孫富の条件を認めた。その後、十娘は二人の悪行を責めてから、数え切れないほどの貴重品を入れている百宝箱を持って、川に飛び込んでしまった。

三度目の「闘い／勝利」は杜十娘は再び一人で、力を合わせた李甲と孫富と闘い、その結果は勝利だと言えないだろう。

『杜十娘怒沉百宝箱』の31機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α)	太学生である李甲は都の有名な遊女である杜十娘に愛慕する。同時に、彼女は彼に従う即ち、「従良」を希望する。
i. 留守 (β)	李甲は両親に離れて都で読書させる。β 1。
ii. 禁止 (γ)	遊女と離れ、地元へ戻れ。γ 2。
iii. 違反 (δ)	十娘を相愛するから帰たくない；十娘は鴛母(妓楼の女将)の命令を無視して、変わらずに、李甲を接待する。δ 2。
iv. 探り出し (ε)	鴛母は「十日で三百両の銀子を出せば、遊女の身分を解消(身請け)できる」と言う。ε 3。

v. 情報漏洩 (ζ)	十娘は鴛母の話を李甲に伝える。ζ3。
vi. 謀略 (η)	李甲は旅費がほしいと友人たちに借りる。η1。
vii. 帮助 (θ)	/。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	鴛母は三百両の銀子を出せることで加害する。出せないと、二人が離縁させる；孫富は千両銀子で李甲と彼女を交換する。A7。
viii. 欠如 (α)	杜十娘は遊女屋から足が抜きたい；李甲はなかなか三百両の銀子を手に入りにくくなる。a2。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	十娘は半分を出す。柳遇春も応援する。B7。
x. 対抗開始 (C)	/。
xi. 出立 (↑)	/。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	謝月朗などは十娘と李甲の披露宴を用意する。D1。
xiii. 主人公の反応 (E)	二人は感謝する。E1。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	謝月朗は一つの金文具を十娘に渡す。F1。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	十娘は李甲に従って、李府へ出発する。G2。
xvi. 闘い (H)	杜十娘と鴛母の闘い；杜十娘と李甲、孫富の闘い。H1。
xvii. 標づけ (J)	十娘は百宝箱から真珠、玉など貴重品を出して江に棄てる。J3。
xviii. 勝利 (I)	鴛母から承諾を得る。 十娘の「従良」という希望は現実になった。 十娘は百宝箱を抱き川の中に飛び込む。I1。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	杜十娘が遊女屋から足が抜ける；李甲は孫富から千両の銀子をもらう。杜十娘との「従良」という夢が失われる。K2。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	十娘は柳遇春の夢中に姿を現わす。↓。
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	/。
xxiv. 不当な要求 (L)	/。
xxv. 難題 (M)	/。
xxvi. 解決 (N)	/。
xxvii. 発見・認識 (Q)	十娘は李甲の悪行を柳遇春に訴える。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	/。
xxix. 変身 (T)	/。
xxx. 処罰 (U)	李甲は意識を失くす；孫富は一か月を経て、亡くす。U。
xxxii. 即位・結婚 (W)	結婚は未達成。w*

物語における機能の順序：

α β 1 γ 2 δ 2 ε 3 ζ 3 η 1 A7 a2 B7 D1 E1 F1 G2
 $\overbrace{\hspace{1.5cm}}^3 \overbrace{\hspace{1.5cm}}$
 H1 J3 I1 K2 ↓ Q U w*

②『玉堂春落難逢夫』には、上述した場面も三度現れる。

I、玉堂春は一人で老鴛とその旦那との闘いと勝利（一度目 H1/I1）

王公子は三万両の銀子を一秤金の妓楼で使ってしまった。すると、彼は鴛母にそこから追い出された。また、鴛母は玉堂春に他の客を接待しなさいと命令した。玉堂春はそうしなかった。常に公子と往来した。

一度目「闘い／勝利」は玉堂春が勝った。一度目の欠如 K4 — 公子と会えないこと — を解消した。

II、玉堂春と王公子は力をあわせて、鴛母との闘いと勝利（二度目 H1/I1）

玉堂春と公子は謀り事をめぐらし、公子は妓楼へ戻って、五万両の銀子を持ってきた、と言った。すると、鴛母はまたニコニコ顔をした。公子は玉堂春と約束した後に、金と、小道具である鏡をもらって、故郷へ戻ってしまった。

二度目の「闘い／勝利」は玉堂春と王公子が勝った。二度目の欠如 K4 — 公子は行く所がないこと — を解消した。同時に、小道具をもらった。

III、玉堂春一人で、鴛母との闘いと勝利（三度目 H1/I1）

後ほど、鴛母は騙されたことが分かって、玉堂春と町で激しく喧嘩した。

玉堂春は知恵をうまく使って、鴇母から身請け（遊女身分を解消する）の証文をもらった。そこで、玉堂春と妓楼の鴇母との関係が解除された。

三度目の「闘い／勝利」は玉堂春が勝った。三度目の欠如 K4 — 玉堂春の遊女身分 — が解消した。

『玉堂春落難逢夫』の 31 機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α)	官吏の息子である王順卿(又、王三官人と呼ばれる)は遊女である玉堂春に一目惚れする。二人は深く愛し合うが、鴇母に引き裂かれる。
i. 留守 (β)	官吏である王思竹は帰郷する前に三番目の息子である王順卿と下男王安を都に残す。β 3。
ii. 禁止 (γ)	ここで、しっかり読書しなさい。それ以外のことをしないで下さい、と父親が命令する。γ 1。
iii. 違反 (δ)	王順卿は一秤金の遊女屋に入る。δ 1。
iv. 探り出し (ε)	一秤金に、玉堂春を訪問に来る。ε 2。
v. 情報漏洩 (ζ)	あるお金持ちが百両の結納金を持って彼女に尋ねて来たが断られる。ζ 2。
vi. 謀略 (η)	鴇母は玉堂春に王公子と仲よくなってください、と勧める。η 1。
vii. 帮助 (θ)	玉堂春と王公子が仲よくなる。θ 3。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	鴇母が陰謀をめぐらし、亭主の亡八が玉堂春を遠い所へ連れ去り、王公子は衣類など品物を盗まれる。玉堂春は沈洪の妻である皮氏に、旦那を殺した犯人であると誣告される。A1。
viii 欠如 (a)	玉堂春は遊女屋から足抜きをしたい。 二人は会えなくなりそう。 王公子は行くところがない。a2。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	友人である王銀匠は王公子を彼の家に住ませ、同時に、お茶の摘みをする若者である金哥は王公子と玉堂春の間で情報を伝える。B5。
x. 対抗開始 (C)	/。
xi. 出立 (↑)	玉堂春は土地廟へ公子と面会に出かける。C↑。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	玉堂春は二百両の銀子を公子に渡して、密に計画を計る。D1。
xiii. 主人公の反応 (E)	公子は玉堂春の計画の通りに妓楼へ戻ってくる。E1。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	公子と玉堂春は一人ずつ半分の鏡を持って、離れる。F1。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	公子は地元へ戻る。G4。
xvi. 闘い (H)	玉堂春と鴇母は町で喧嘩する。H1。

xvii. 標づけ (J)	玉堂春は鴇母から邪魔しない証文を書いてもらう。しかし、鴇母が約束を破り、玉堂春を山西の商人である沈洪の妾とする。J3。
xviii. 勝利 (I)	二人が会えない事が解除。 公子は行く所をきめた。 鴇母は玉堂春の要求を受け、遊女身分を解除。I1。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	公子は玉堂春からもらった金銀など貴重品と半分の鏡を持ち、地元へ戻る。K11。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	公子は真定府の理刑官となる。↓。
xxi. 追跡 (Pr)	沈洪は殺され、その妻である皮氏は玉堂春は犯人である、と官府に証告する。Pr2。
xxii. 救助 (Rs)	刑房官である劉志仁は玉堂春に冤を訴える方法を教える。Rs9。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	公子は山西巡撫となる。玉堂春のことを了解した上で、平陽府に着く。O。
xxiv. 不当な要求 (L)	趙昂、皮氏、王婆らは沈洪を殺してはいない、と抗弁する。L ₅ 。
xxv. 難題 (M)	趙昂、皮氏、王婆らが劉志仁に拷問される。M9。
xxvi. 解決 (N)	三人どもそれぞれの罪を認める。*N。
xxvii. 発見・認識 (Q)	玉堂春と公子は再会。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	玉堂春は公子の妻である劉氏と初対面。Ex。
xxix. 変身 (T)	公子の父母は玉堂春を認める。T。
xxx. 処罰 (U)	皮氏は死刑を受ける。亭主の亡八がもう死んだ。一秤金も律によって処罰される U。
xxxi. 即位・結婚 (W)	玉堂春は公子の妾となる。*W。

物語における機能の順序

α β3 γ1 δ1 ε2 ζ2 η1 θ3 A1 a2 B5 C ↑ D1
 E1 F1 G4 H1 J3 I1 K11 ↓ Pr2 Rs9 O L M9 *N Q
 Ex T U *W

③二つの物語の異同点

以上、二つの物語は同じ類型のものであるが、異なる個所もある。次の表で示す。なお、『杜十娘怒沉百寶箱』を『杜』と『玉堂春落難逢夫』を『玉』と略した。

篇名	闘う原因と結果	二人公子が遊女院に掛けた時間、銀子	二人女の個人財産	二人女の身分が変わる手段	結局
杜	一、二度目同じ。三度目異なる。	一年余り。明示さず。	知らないほどの百宝箱	自分から半分の身代金を出す。	永遠に一緒にいると誓う。結婚。妾になる。
玉	一、二度目同じ。三度目異なる。	一年余り。三万両。	一つ箱の金銀首飾り、器皿。	自分で戦って勝つ。	永遠に一緒にいると誓う。希望を達成できず。

2、一つの発端を持つ二つの行程から成る話で、敵対者との闘い／勝利を経て展開される類型

①『蘇知縣羅衫再合』

『蘇知縣羅衫再合』の場合には、

一つの発端は、蘇知県夫婦は悪人である徐能らに襲われるが、後ほど、蘇知県は陶公に救われ、夫人鄭氏は徐能の弟である徐用と朱婆によって解放された。そして、鄭氏には一人息子が生まれた。仕方無く、薄絹の上着（羅衫）に包んで、道に放置した。徐能は鄭氏を追跡する際にその子を見つけた。その子が鄭氏の子であると知らないまま自分の子として、育てた。徐継祖という名前を付けた。

二つの行程とは、

その一、探索に出立（C↑）

徐継祖は十五歳になって、科挙受験を受けに出立した。途中一涿州という場所でお婆さんと出会い。（D1）。そして、お婆さんの悲しい話を聞いた。（E10）。一枚羅衫をもらった。また、もう一枚同じ羅衫があり、それを息子の嫁が持つと暗示した。（F1）。ここまで、第一の行程が終わり、その機

能は「贈与者による試練」である。

その二、探索に出立 (C↑)

徐継祖は科挙に合格し、官になり、三年経って御史になった。涿州へ赴任した。鄭氏の訴状を読んだ。その内容は三年前に遇ったお婆さんの話とほぼ同じである。他の事情と合わせて考えてみると、父親は鄭氏の言う悪人であろうと思い、また、自分の身の上についても疑念が生じた。姚大の話によって、自分の疑問は明らかとなった。(H1)。また、姚大から、一枚血に濡れた羅衫を手に入れた。それは涿州のお婆さんから贈与した物と同じである。(J3)。徐能は十九年前、実の父母を襲った犯人であることも分かった。(I1)。後ほど、徐継祖と蘇雲が南京に着き、徐能らの悪行を官府に通報した。そして、徐継祖の正体が分かり、苗字と名前を変えて、蘇泰という名を付けた。徐能らは処罰された。蘇雲はその家族と団円した。これが第二の行程である。その機能は、「主人公と加害者の闘いと勝利」である。

以上である。

『蘇知縣羅衫再合』の 31 機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α)	
明朝の永樂年間、北直隸涿州出身の蘇雲は、大尹としてなされ、妻である鄭氏を連れて浙江金華府蘭溪県に赴任する。途中で賊である徐能に襲われる。19 年経って、徐の養子であり、実は蘇の息子である徐継祖は、一枚の羅衫によって、父母を再会させ、復讐する。	
i. 留守 (β)	蘇雲は妻を連れて赴任、母と弟は地元にいる。β 1。
ii. 禁止 (γ)	/。
iii. 違反 (δ)	/。
iv. 探り出し (ε)	徐能は蘇勝に「旦那様は何処に行くつもりですか。」と尋ねる。ε 3。
v. 情報漏洩 (ζ)	蘭溪へ。ζ 3。
vi. 謀略 (η)	徐能は蘇勝に「これは山東王尚書府の船です」と教える。η 1。
vii. 幫助 (θ)	蘇勝は徐能の話を蘇知県に伝える。θ 3。
II. 故事主體(viii-xx)	

viii. 加害 (A)	蘇知県は川に投げ込まれる。A10。 その妻は徐の家へ連れ去られる。A2。
viii 欠如 (a)	蘇知県は陶公に救われる。鄭氏は徐の家から逃げて、庵に入り、一人の息子がうまれる。a5。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	徐用と朱婆は鄭氏を解放し、遠くまで送る。B7。
x. 対抗開始 (C)	/。
xi. 出立 (↑)	徐継祖は科擧の試験を受けに行く。C↑。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	あるお婆さんに水をもらう。D1。
xiii. 主人公の反応 (E)	お婆さんの家に入る。E10。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	鄭氏は上着で赤ちゃんを包む。 一枚羅衫を獲得。息子の嫁はもう一枚同様羅衫を持つと教える。F1。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	鄭氏は涿州に着く。訴状を進士に当たる徐継祖に渡す。G2。
xvi. 闘い (H)	徐継祖は自分の身の上を疑う、姚大に聞く。H1。
xvii. 標づけ (J)	姚大は血に濡れられた羅衫を徐継祖に渡す。 涿州で逢ったお婆さんから獲得した羅衫と全く同様。J3。
xviii. 勝利 (I)	徐能は実の父親でないこと、お婆さんは私の祖母、鄭氏は私の母親であることが分かる。I。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	徐継祖は即ち、19年前鄭氏が生んだ息子である。徐能は知らないうちに育て、徐継祖と名前を付けることが明らかとなった。K2。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	徐継祖は南京へ赴任。↓。
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかされる到着 (O)	蘇雲は徐継祖の後堂に入って19年前の賊を見分ける。O。
xxiv. 不当な要求 (L)	徐能は徐継祖に「継祖、吾の子、我を救ってくれ。」と要求する。L。
xxv. 難題 (M)	血に濡れられた羅衫と金釵、及び涿州で逢ったお婆さんから獲得した羅衫を蘇知県に渡す。M9。
xxvi. 解決 (N)	家のものですと認める。Nbar。
xxvii. 発見・認識 (Q)	父と子は知る。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	鄭道姑と蘇雲が顔を合させる。Ex。
xxix. 変身 (T)	徐継祖の苗字と名前を変えて、蘇泰という呼びかけをつける。T1。
xxx. 処罰 (U)	姚大は首を締めさせる；その他の賊人たちが首を切られる。U。 又、徐用が釈放される。Ubar。
xxx. 即位・結婚 (W)	蘇雲はその家族と団円する。W2。

② 『蔣興哥重會珍珠衫』

この物語の発端は、陳大郎は蔣興哥の家庭を破壊し、小道具である珍珠

衫を着せる。(A5、A2)。

二つの行程は、

その一、蔣興哥は急いで地元へ帰る(↑)。そして、妻である王三巧と離縁し、実家へ戻した。(G2)。蔣興哥は妻の父親に珍珠衫を還してくださいと要求した。(H1)。陳大郎が死んだ。その妻である平氏は蔣興哥と結婚した。そこで、珍珠衫が戻ってきた。(I1)。

その二、陳大郎の妻平氏は旦那を助けるために、出立(↑)。陳大郎は毎日珍珠衫を見ながら涙が出てきて、妻平氏は理解できず、二人は喧嘩する(H1)。旦那が死んだ。平氏は蔣興哥の妻になった(I1)。

以上である。

だが、この物語は二つの「闘い／勝利」の機能を含む。しかし、主人公である蔣興哥は加害者である陳大郎と直接に戦うことをしなかった。妻の父親に珍珠衫を還すと要求することを通じて、加害者(実は王三巧をも含む)と闘った。そして、その勝利は珍珠衫を戻ってくることであるが、それも直接に加害者から奪回したのではなくて、加害者が死んでから、その妻と主人公を再婚する際、持ってきた。という流れを通じて加害者に勝った。

また、第一の行程と第二の行程の異なるのは、平氏は直接に陳大郎と闘う。そして、彼が死んだことにより、平氏に新しい生活をスタートさせる。ということである。

以上、『蔣興哥重會珍珠衫』の構造についての話である。その物語の 31 の機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α) 商人である蔣興哥は商売に行ってしまう。若い妻である王三巧を留守させる。徽州新安縣出身の商人である陳大郎は蔣興哥の妻を付き合う。そして、蔣興哥の珍珠衫を着て去ってしまう。	
i. 留守 (β)	蔣興哥は商売に行く。妻である王三巧に留守させる。β 1。
ii. 禁止 (γ)	蔣興哥は何回妻に「莫在門前窺瞰，招風攬火——外に顔をだすな、めんどうなことにならないようにしなさい」と命令する。γ 2。
iii. 違反 (δ)	妻は暖簾を掲げ、下を見る。δ 2。
iv. 探り出し (ε)	陳大郎は薛婆に「敝郷里汪三朝奉典鋪對門高樓子内是何人之宅」と、聞く。ε 3。
v. 情報漏洩 (ζ)	薛婆は、「這是本地蔣興哥家裏，他男子出外做客，一年多了，止有女眷在家——彼女は地元の蔣興哥の妻です。旦那は外出し、もう一年に立ちました。妻と下女たちが留守です」と返事する。ζ 3。
vi. 謀略 (η)	薛婆は王三巧を陳大郎の「そばに入れるように、幾つかのはかりごとをめぐらす。η 3。
vii. 幫助 (θ)	二人のはかりごとが成功する。θ 3。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	陳大郎は王三巧と関係を結ぶ。A5。 蔣興哥の先祖の形見である珍珠衫を陳に着せる。A2。
viii 欠如 (a)	陳は王三巧と離れる。a6。蔣興哥の珍珠衫も陳と一緒に遠いところへ去って行く。a2。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	偶然に蔣興哥は陳と知り合いになって、珍珠衫を陳が着ていることから、妻と陳の関係が分かった。ショックを受ける。B4。
x. 対抗開始 (C)	蔣興哥は陳が王に送る手紙を破る。C。
xi. 出立 (↑)	蔣興哥は急いで陳と分かれて、地元へ帰る。↑。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	蔣興哥は家の貴重品をも妻に管理させる。D10。
xiii. 主人公の反応 (E)	王は珍珠衫を陳にあげ、その上に、いいものですと教える。E7。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	陳は蔣興哥の珍珠衫を持つ。F8。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	王三巧が旦那に離縁され、自家へ戻される。G2。
xvi. 闘い (H)	蔣興哥は妻の父親に珍珠衫を還して下さいと要求、陳大郎は毎日珍珠衫を見ながら涙が出てきて、妻平氏は理解できず、二人は喧嘩する。H1。
xvii. 標づけ (J)	王三巧は合浦縣の呉県令の妾にされる。J3。
xviii. 勝利 (I)	陳大郎が湖廣襄陽府棗陽縣へ王三巧と再会に来る。残念ながら、その土地で死んでしまう。I1。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	蔣興哥は平氏を嫁に迎える。K2；珍珠衫と再会する。K5。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	/。
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	蔣興哥は合浦縣へ商売に来る。O。

xxiv. 不当な要求 (L)	蔣興哥は宋老人を殺す容疑者として通報される。L。
xxv. 難題 (M)	呉県令、王三巧の新しい旦那はその通報を受理しどう審理するのか困る。M3。
xxvi. 解決 (N)	呉県令の調整する下で、蔣興哥と宋老人の息子と和解し、蔣興哥は釈放される。*N。
xxvii. 発見・認識 (Q)	蔣興哥と王三巧は再会する。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	二人は元々の関係を呉県令に伝える。Ex。
xxix. 変身 (T)	呉県令は王三巧と離縁する。T1。
xxx. 処罰 (U)	王三巧は蔣興哥の妾となされる。U。
xxxi. 即位・結婚 (W)	蔣興哥は王三巧と復縁する。W2。

3、難題／解決 (M/N) 類型

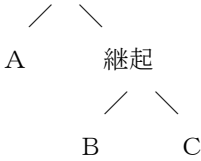
この範囲に属するものは、『權學士權認遠郷姑 白孺人白嫁親生女』と『莽二郎驚散新鶯燕 扶梅香認合玉蟾蜍』である。

ところが、上掲二つの物語の構造については、もちろんプロップの「難題／解決 (M/N) 類型」に適当であるが、以下に紹介する小方孝の論を導入すれば、その物語構造を明らかにするのは更に容易であると考えられる。

①小方らの論

小方孝らが、プロップの登場人物の 31 の機能を物語生成システムの体系的な研究への導入という視点から、システムの設計、開発という手法により、プロップの方法の様々な可能性の検討を行っている。具体的には、プロップの「機能」という説から、新たに「物語木」という用語を提案している。すなわち、「物語内容は物語木として構成され、その終端節点は、事象 (event もしくは action) に、それ以外の節点は「関係」に相当する。事象は、動詞的概念 (事象概念) を先頭要素とし幾つかの格と値の対を含むリストによって表現される。関係は一つ以上の下位関係もしくは下位事象にとっての上位節点である。関係の種類として、「継起」、「原因—結果」、「対照」等が定義されているが、この集合は拡張可能である」と。^(注11) この論の図式は次の如く示すことができる。

原因——結果



A、封筒の中身が気になる。

B、封を開ける。

C、中の手紙を読む。

ところで、小方らが、「しかし、物語に含まれるすべての事象を一度に一つの物語木として構造化するのは困難であり、ある程度の大きさの物語木を束ねる単位としてシーン (scene) を導入した。シーンとは、同一の登場人物、時間の連続性及び場所の同一性によって、判別された。物語におけるひとまとまりの意味的単位である。したがって、このようなシーン単位の物語木が複数構成される。これをシーン木と呼ぶ。^(注 12)」と説明されている。

故に、この研究結果を活用すれば、上掲二つの物語のシーン木が作れると考え、次のように分析を試みた。

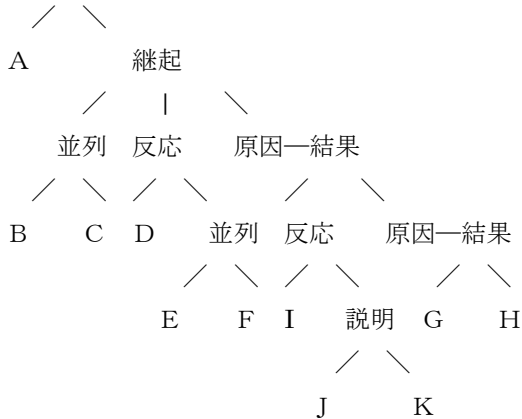
②『權學士權認遠郷姑 白孺人白嫁親生女』

I 城隍廟の前の露天市場

- A、權學士は散歩しながら物を見る。
- B、突然ある奇異な物が目に入る。
- C、見ると、古い紫金鈿盒の蓋である。
- D、なぜ蓋のみか、気になるが、帰る。
- E、再び、その店に戻ってくる。
- F、一枚メモをもらう。
- G、メモを読む。
- H、丹桂と留哥の婚約書である。
- I、三度目その店に来る。

- J、留哥が亡くなっらしい。
- K、紫金鈿盒の本体を丹桂の母親が持つ。

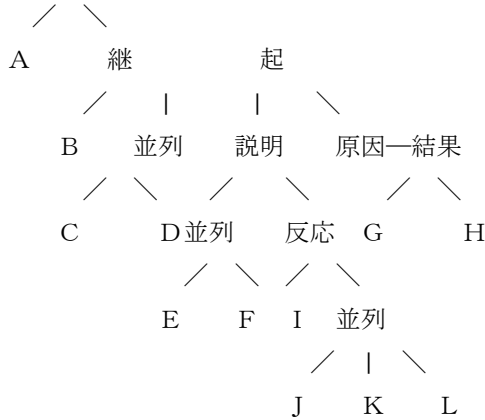
場所——城隍廟の前の露天市場



II 呉門 —— 月波庵

- A、妾を迎えるため呉門に着く。
- B、七月七日の夜月波庵の所で詩を詠じる。
- C、ある若い娘の姿を見る。
- D、線香を叩きながら独り言を言う。
- E、妙通に彼女のことを聞く。
- F、丹桂とお名前、母親の姓は白であり、京の出身である。
- G、紫金鈿盒の蓋と婚約書をも持つ。
- H、自ら姓は白であり、丹桂のお母さんの姪であると声明する。
- I、蓋と本体ピッタリとあう。
- J、結婚。
- K、官位が登る。
- L、正体露見。

場所——呉門の月波庵



『權學士權認遠郷姑 白孺人白嫁親生女』の 31 機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α)	権翰林は露天店で紫金鈿盒の蓋を買った。妻が亡くなり、地元へ戻った。そして、旅に出た。その紫金鈿盒の本体を持つ白孺人とその家族に出会う。
i. 留守 (β)	徐官人が亡くなった。その妻である白孺人と息子である糕児、娘である丹桂らを残す。β1。
ii. 禁止 (γ)	/。
iii. 違反 (δ)	/。
iv. 探り出し (ε)	/。
v. 情報漏洩 (ζ)	/。
vi. 謀略 (η)	/。
vii. 幫助 (θ)	/。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	/。
viii 欠如 (a)	丹桂の婚約者である留哥が死亡。權學士の妻も死亡。a2。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	權學士地元へ戻る。B6。
x. 対抗開始 (C)	/。
xi. 出立 (↑)	權學士は旅に出立。C↑。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	權學士はある老人の露店で紫金鈿盒の蓋を発見。それは白孺人の娘である丹桂と留哥の婚約の証、その中に婚約証文もある。D10。
xiii. 主人公の反応 (E)	その紫金鈿盒の本体を白孺人は持つ。E1。

xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	権學士は老人から紫金鈿盒の蓋を購入し、その中の婚約証文を読む。F6-9。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	権學士は呉門へ来て、月波庵に泊まる。ある女性は七月七日の夜月波庵へ焼香に来る。G2。
xvi. 闘い (H)	/。
xvii. 標づけ (J)	その女性は丹桂という呼び名で、母親は都出身の白孺人である。権學士は手に入れた証文と彼女の身の上がほぼ同じであると感ずる。J3。
xviii. 勝利 (I)	/。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	丹桂は権學士が探し求める相手である。K4。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	/。
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	権學士は白孺人の家に訪ねて来る。O。
xxiv. 不当な要求 (L)	自ら白姓、白孺人の姪ですと宣言。L。
xxv. 難題 (M)	白孺人は妙通にこの紫金鈿盒の本体を持って、彼の紫金鈿盒の蓋と合わせることを頼む。M9。
xxvi. 解決 (N)	ピタリと合う。*N。
xxvii. 発見・認識 (Q)	白孺人は「骨肉重完、旧物再見 — 肉親再会し、旧物再現する」と認める。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	京から権學士の官位が昇った情報を送って来る。Ex。
xxix. 変身 (T)	翰林学士が婿になる。T。
xxx. 処罰 (U)	妙通に感謝。Ubar。
xxxi. 即位・結婚 (W)	結婚し、丹桂は「宜人」に封じられる。Wsup。

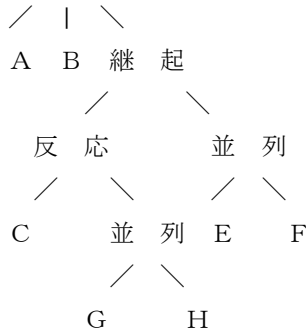
③ 『莽兒郎驚散新鶯燕 扶梅香認合玉蟾蜍』

I 杭州の呉山（又、胥山と称す）の西にある庭付きの家

- A、鳳来儀は庭をゆっくりと散策する。
- B、素梅は自分の家の二階の窓際に立って、下を見る。
- C、二人とも相手の状況を知りたい。
- D、龍香は二人の気持を両方に伝える。
- E、二人は初対面。
- F、玉蟾蜍と金指輪を交換する。
- G、素梅は銭塘門に行ってしまう。

H、鳳来儀は京へ科挙受験を受けに行ってしまう。

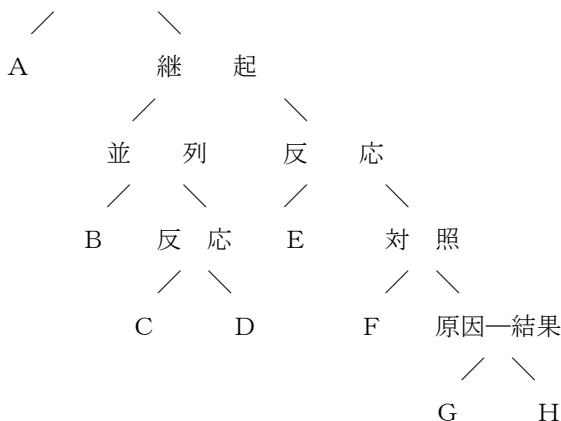
場所——杭州の呉山



II 杭州の銭塘門の金氏官邸と楊氏官邸

- A、金氏官邸：媒人が鳳来儀と素梅の因縁を結ぶ。
- B、金氏官邸：金三員外は一つの玉蟾蜍を結納の禮として贈与。
- C、楊氏官邸：鳳来儀からもらった玉蟾蜍と同じ模様。
- D、楊氏官邸：紹介してくれた人が鳳来儀本人かと疑う。
- E、金氏官邸：私の身の上を誰も知らないと言ふと鳳来儀は自己弁明。
- F、金氏官邸：龍香は媒人と金府に進入。
- G、金氏官邸と楊氏官邸：素梅と鳳来儀は相手の身元を知る。
- H、金氏官邸：結婚。

場所——杭州の銭塘門



『莽兒郎驚散新鶯燕 扶梅香認合玉蟾蜍』の 31 機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α) 杭州府出身の秀才である鳳来儀と楊姓である家の娘素梅、二人は偶然に出会い、密に婚約し、証として玉蟾蜍と金指輪を交換した。	
i. 留守 (β)	鳳来儀の父母が亡くなったから、母親の兄の家に住む；素梅の父母も亡くなったから、兄の家に住む。β 1。
ii. 禁止 (γ)	しっかり読書しろ。γ 2。
iii. 違反 (δ)	鳳来儀は読書で疲れたから、庭を散策。δ 2。 素梅は窓際に立ち、下を見る。δ 2。
iv. 探り出し (ε)	鳳来儀と素梅は互いに相手の状況を知りたい気持を持つ。鳳来儀は素梅の中女である龍香に彼女のことを聞く。ε 3。
v. 情報漏洩 (ζ)	龍香は彼女のことをすべて鳳来儀に伝え、鳳来儀は彼女と会いたい気持をも彼女に伝える。ζ 3。
vi. 謀略 (η)	素梅は兄を騙して、彼と対面しようとする。η 1。
vii. 幫助 (θ)	龍香は彼女を彼のところへ連れて来る。θ 1。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	/。
viii 欠如 (a)	/。
ix. 伸介或は繋ぎの段階 (B)	/。
x. 対抗開始 (C)	/。
xi. 出立 (↑)	/。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	金三員外は一つの玉蟾蜍をお祝いとして鳳来儀に贈与。D1。

xiii. 主人公の反応 (E)	鳳来儀はこれを大事に持つ。E1。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	鳳来儀は玉蟾蜍を素梅に贈与；素梅は彼に金指輪を贈与。それらは婚約の証の品とする。F1。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	素梅のお婆さんは彼女を銭塘門まで連れていく。G1。
xvi. 闘い (H)	/
xvii. 標づけ (J)	媒人は素梅と鳳来儀の縁を偶然にも結ぼうとする。金三員外はもう一つの玉蟾蜍を結納の禮として贈与。J3。
xviii. 勝利 (I)	二つの玉蟾蜍は同じ模様。I1。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	紹介してくれた人は鳳来儀本人かと疑がう。K2。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	鳳来儀は赴任地から銭塘門へ帰る。↓。
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	/。
xxiv. 不当な要求 (L)	鳳来儀は自己弁明。L。
xxv. 難題 (M)	龍香は媒人とともに金府に進入。M9。
xxvi. 解決 (N)	龍香は鳳来儀と再会。Nbar。
xxvii. 発見・認識 (Q)	龍香は鳳来儀に素梅に贈った玉蟾蜍を見せ、鳳来儀は素梅からもらった金指輪を龍香にもみせる。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	素梅と鳳来儀は相手の身元を確認。Ex。
xxix. 変身 (T)	/。
xxx. 処罰 (U)	/。
xxxii. 即位・結婚 (W)	結婚。Wsup*。

4. 同形異義の現象 — 贈与者による試練 D1／難題 M

このタイプとして分析できるのは、『宋小官團圓破甃笠』と『白玉娘忍苦成夫』と『範鯁兒雙鏡重圓』である。

①『宋小官團圓破甃笠』

この物語の発端は、宋小官と森で出会った和尚が、彼に『金剛經』を読むことを望み、宋小官はその通りにする。和尚と宋小官の間での出来事は、贈与者（和尚）が主人公（宋小官）を試す試練と、その結果、主人公が小道具、即ちプロップの「呪具」^(注13) という物である『金剛經』の力を受けること、という意味を持つ。

宋小官は南京で大金持ちになってから、妻とその家族を探しに出立し、見つける。そこでは、明らかに出来事は求婚に関連した「難題」ということである。この場合も、贈与者による試練とみなすことはできず、機能が全く別の「難題」である。

『宋小官團圓破甌笠』の場合には、二つの小道具があり、一つはモノである「破甌笠」であり；もう一つは先ほど述べた『金剛経』の力である。即ち、魔法のような力である。

宋小官は山西の銭員外の身分として、劉公の船に乗り、「破甌笠を貸してください」と要求すると、小道具によってすぐに真実が分かり、夫婦が団円した。つまり、求婚に関連する「難題」が解決した。

『宋小官團圓破甌笠』の 31 機能を示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α)	宋金 (又、宋小官と呼びかける) とその妻劉宜春、妻の両親、僧侶、南京に住む王公、盗賊。
i. 留守 (β)	宋氏夫婦が亡くなり、十五歳の息子である宋金が残った。β 1。
ii. 禁止 (γ)	/。
iii. 違反 (δ)	/。
iv. 探り出し (ε)	ある日宋金は父親の友人である劉公と相遇する。ε 3。
v. 情報漏洩 (ζ)	劉公は宋金を自分の船へ連れて戻る。ζ 2。
vi. 謀略 (η)	劉公はその妻に宋金を家の入り婿にしたほうがいいと勧める。η 1。
vii. 幫助 (θ)	宋金と劉公の娘である劉宜春と結婚させる。θ 1。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	劉公は宋金を岸に残し、娘を連れて出発する。A7。
viii 欠如 (a)	宋金は死にそうになってしまうが、ある和尚が宋金を救った。a2。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	宋金を義理の父親に森へ連れてゆかれ、放置される。B5。
x. 対抗開始 (C)	
xi. 出立 (↑)	劉宜春は森へ旦那を探しに出立。C↑。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	和尚は宋金に『金剛経』を読めと勧める。D1；宋金が八つ箱の宝物を見つけれられる。D6。
xiii. 主人公の反応 (E)	『金剛経』を読み元気になって、旅を始める。E1。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	劉宜春は破れた甌笠を直し、宋金に渡す。『金剛経』を手で持つ；船頭さんから八の宝箱を南京へ運んでもらう。F1。

xv. 二つの国の空間移動 (G)	宋金は南京で大金持ちになり、妻とその両親を探しに行く。G2。
xvi. 闘い (H)	宜春は自殺すると父母を脅す。H1。
xvii. 標づけ (J)	旦那のために、喪服を着る。J3。
xviii. 勝利 (I)	劉公夫婦は娘に再婚させることを諦める。I1。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	宋金は南京で金持ちとして、銭員外とあだ名がつけられる。K9。
III. 英雄回帰 (xxi-xxxiii)	
xx. 回帰 (↓)	宋金は妻とその家族を儀真へ尋ねて来る。↓。
xxi. 追跡 (Pr)	/
xxii. 救助 (Rs)	/
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	宋金は妻の家の船を見つけ、妻の姿をも見る。O。
xxiv. 不当な要求 (L)	
xxv. 難題 (M)	宋金は自ら「陝西の銭員外」と称し、劉公の娘と縁を結ばれるようにと王公に頼む。M11。
xxvi. 解決 (N)	宋金は劉公に破れた籠笠を貸してください、要求する。*N。
xxvii. 発見・認識 (Q)	宜春はこの人は私の旦那であると認識。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	宋金と宜春は夫妻再会。Ex。
xxix. 変身 (T)	宜春は喪服を脱ぐ。T1。
xxx. 処罰 (U)	劉公夫妻は非常に恥かしいと感じる。Ubar。
xxxi. 即位・結婚 (W)	宋金夫妻は復縁。W2。

②『白玉娘忍苦成夫』

この物語の場合には、「贈与者から主人公に試練」という機能が三回見ることが出来る。

その第一回、白玉娘と程万里は結婚した三日目、玉娘は旦那に自分の故郷へ逃げろと勧める。(D1)。主人公(程万里)は妻の話を疑い、張万戸に報告した。(E1)。

その第二回、又、三日間経って、玉娘は再び旦那に故郷へ逃げろと勧めた。(D1)。主人公(程万里)はまた妻の本気を疑い、張万戸に通報した。(E1)。

その第三回、二人は離れ離れとなった。その際に、玉娘は二人の靴を片方ずつ交換しようとして提案した。(F1)。これが小道具である。主人公(程万里)は、やっと妻の気持ちが変わり、後悔したが、間に合わなかったため、

離れ離れの状態になってしまった。そこで、妻の靴を大事にすることにした。(E1)。

この物語の場合には、「難題」という機能は二回した。

その第一回、程万里の助手にあたる程恵は玉娘の居る場所を見つけた。「一緒に旦那様の所へ行こう」と言ったが、玉娘は「私は、今生ではこの片方ずつの靴によって復縁するのを望まない」と返事した。程恵は白玉娘が持つ靴を持ち帰った。(M9)。

その第二回、程万里はほかの同僚の協力により、ふたたび妻と復縁したい気持ちを伝えた。(M9)。彼女は彼の意向に同意し、「復縁」という難題が解決された。

『白玉娘忍苦成夫』の 31 機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α) 程万里は戦乱中、張万戸の配下とされ、そして、侍女である白玉娘と結婚させられる。	
i. 留守 (β)	程万里の父母がなくなる。漢口に行こうとする。β 2。
ii. 禁止 (γ)	/。
iii. 違反 (δ)	/。
iv. 探り出し (ε)	/。
v. 情報漏洩 (ζ)	/。
vi. 謀略 (η)	/。
vii. 幫助 (θ)	程万里は興元府の張万戸に捕まれ、彼の配下とされ、白玉娘と結婚させられる。θ 1。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	白玉娘は張万戸によって他人に売られる。A9。白玉娘は他人の妾となるよう脅される。A16。
viii 欠如 (a)	/。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	程万里は大後悔する。B4。
x. 対抗開始 (C)	程万里は張万戸の下から逃げようとする。C。
xi. 出立 (↑)	張万戸は程万里を鄂州に行かせる。↑。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	白玉娘は自分の靴の片方と程万里の靴の片方を交換する。D10。
xiii. 主人公の反応 (E)	妻の靴を見ながら泣く。E10。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	相手の片方の靴をもつ。F1。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	程万里が健康へ逃げてしまう。周翰に訪問する。

xvi. 闘い (H)	張万戸は程万里に大変恨みを持つ。殺すと決心する。H1。
xvii. 標づけ (J)	白玉娘は再婚しないと誓う。J3。
xviii. 勝利 (I)	張万戸の悪行為が他人に告発され、死んでしまう。I1。
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	程万里の下男である程恵は白玉娘を探しに行く。白玉娘は曇花庵の尼になる。K2。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	程万里が陝西省の參知政事となされる。↓
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	程万里の下男である程恵は曇花庵に着く。O。
xxiv. 不当な要求 (L)	程恵は白玉娘と一緒に旦那のところに行こうと勧める。L。
xxv. 難題 (M)	程恵は白玉娘が持つ二つの靴を持ち帰る。M9。
xxvi. 解決 (N)	白玉娘は旦那のところへ行くと決める。Nbar。
xxvii. 発見・認識 (Q)	相手のことをすべて了解する。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	興元府の長官が自ら曇花庵へ白玉娘を向いに来る。地元の人々もこのことをも知る。Ex。
xxix. 変身 (T)	玉娘は尼服を着替えて、住持と別れる。T1。
xxx. 処罰 (U)	白玉娘は育てられた恩を報ずるため、張万戸夫婦の葬式を執り行う。Ubar。
xxx. 即位・結婚 (W)	夫婦が団円する。W2。

③『範鯁兒雙鏡重圓』

この物語の場合には、「贈与者から主人公に試練」という機能が二回見られる。

その第一回、結納の禮として、贈与者（範鯁兒）から主人公（順哥）に贈与した。(D1)。主人公はこれを大事にする。

その第二回、贈与者と主人公は別れる際、贈与者から「他日此鏡重圓、夫妻再合」という小道具として再提出した。(D1)。

この物語の場合には、「難題」という機能は、主人公（順哥）が贈与者に試練を与えるというかたちで現れる。主人公は父親に頼み、二人とも持っている半分ずつの鏡を合わせて一体となることを確認する。(M9)。この一回だけである。

『範鯁兒雙鏡重圓』の 31 機能を次の表で示す。

プロット機能	応じるプロット
0 導入の状況 (α) 建州城の官呂公の娘、順哥は範希周と夫婦になる。官軍が城を攻撃し、二人が離散する際、丸い鴛鴦鏡を一枚ずつ持つ。	
i. 留守 (β)	乱の中、順哥と父母は離散。β1。
ii. 禁止 (γ)	/。
iii. 違反 (δ)	/。
iv. 探り出し (ε)	家族の事を聞かれる。ε3。
v. 情報漏洩 (ζ)	官の娘。ζ3。
vi. 謀略 (η)	盗賊の仲間になりたくない、いつか「良民」になることを誓う。η1。
vii. 帮助 (θ)	盗賊の首である範汝為は二人を結婚させる。θ1。
II. 故事主體 (viii-xx)	
viii. 加害 (A)	韓世忠は兵を率いて建州城を破れ、主人公は死にそうだと感じる。A13。
viii. 欠如 (a)	旦那が必ず殺されると思い、自殺しようとする。a6。
ix. 仲介或は繋ぎの段階 (B)	父親に救われる。B2。
x. 対抗開始 (C)	/。
xi. 出立 (↑)	/。
xii. 贈与者の第一機能 (D)	範は先祖伝来の鴛鴦鏡を持つ。その半分を妻に渡す。D10。
xiii. 主人公の反応 (E)	大事に持っている。E1。
xiv. 呪具の贈与・獲得 (F)	婚約の証として、二人ども一枚ずつを持つ。F1。
xv. 二つの国の空間移動 (G)	順哥は父親に従って臨安に行く。範希周は広州で役人になる。G2。
xvi. 闘い (H)	順哥の父母は娘に再婚しなさいと勧める。彼女は拒否する。H0。(*野外ではなく、家庭内部。)
xvii. 標づけ (J)	更に勧められるならば、自殺すると言う。J。
xviii. 勝利 (I)	父母は勧めることをやめる。I0 (*野外ではなく、家庭内部。)
xix. 不幸・欠如の解消 (K)	広州から来た役人賀承信は旦那に似ている。K10。
III. 英雄回歸 (xxi-xxxiii)	
xx. 回歸 (↓)	賀承信は二度呂公の役所に来る。↓。
xxi. 追跡 (Pr)	/。
xxii. 救助 (Rs)	/。
xxiii. 気づかれざる到着 (O)	順哥は談話室の裏にいる。賀承信と父の話を聴く。O。
xxiv. 不当な要求 (L)	/。
xxv. 難題 (M)	鏡を以って彼を試す。M9。
xxvi. 解決 (N)	鏡を毎日持つ。*N。
xxvii. 発見、認知 (Q)	二つの鏡を合わせてみると、一つになり、そこで夫婦が顔を合わせる。Q。
xxviii. 正体露見 (Ex)	賀承信は即ち範希周であった。Ex。
xxix. 変身 (T)	範承信と名前を改める。T0 (*プロットの説に名前は変わる機

	能を載せられなかったので、ここで「T0」符号を付ける)
xxx. 処罰 (U)	/。
xxx. 即位・結婚 (W)	呂公は娘を連れてきて、二人は復縁した。W2。

以上、三つの物語の機能構造は、プロップの「一つの形と別の形との同化が起こった」という説である^(注13)と考えることができる。

だが、この三つの物語の場合には、それらの小道具がいずれも、難題の解決の前に獲得されている。それは、プロップの、「難題の解決の後に呪具の獲得が続くならば、それは贈与者による試練 (D1) である」という説と外れる。その次、「難題の解決の後に花嫁の獲得と結婚が続くならば、二十五番の機能としての難題 (M) である」という説と適当である^(注14)。但し、上掲の三つの物語には、「花嫁を獲得と結婚」という言い方にすれば、「復縁」という言い方のほうが適合であると考えられる。

5、主人公と小道具の結び方

プロップは主人公と呪具、即ち小道具の結び方は九つ形があると考えている。それらは、直接の譲渡 (F1)、在処の指示 (F2)、用意 (F3)、売買 (F4)、偶然の発見 (F5)、突然の出現 (F6)、口に入れられる (F7)、略奪 (F8)、助力の申し出 (F9)、^(注15)である。

上掲九つの物語の小道具と主人公の結び方は、『權學士權認遠郷姑 白孺人白嫁親生女』は偶然の発見 (F5) という形に属するが、『蔣興哥重會珍珠衫』の場合は少し複雑なケースである。以下に示す。

- 蔣興哥→王三巧 用意 (F3)
- 王三巧→陳大郎 直接の譲渡 (F1)
- 陳大郎→平氏 突然の出現 (F6)
- 平氏→蔣興哥 突然の出現 (F6)

その他、七つの物語の場合には、いずれも直接の譲渡 (F1) の形を持つ。

6、小道具の叙事機能 — 予説

ここで言う「予説」とはジュネット（Genette, Gerard, 1980）の「物語言説の時間」論のうちの、「先説法 *prolepse*」という主張に基づく。『物語のディスクール：方法論の試み』（花輪光、和泉涼一訳 風の薔薇、1985）では、「過去における現在の予想」という説明をしているが、分りにくく、本稿では「予説」という言葉を使用する。

本稿に挙げられる九つの例はそれぞれの小道具を主人公と結ぶ際に、主人公たちの未来、或いはその以後の運命などのことが予説される。これについて、これから一つずつ説明しよう。

i 『杜十娘怒沉百寶箱』の小道具 — 百寶箱

「百寶箱」の「百」はここで数量詞の意味ではなく、「多い」の意味である。即ち、唯一ではないことを意味する。中国の伝統的女性の場合は、「二夫にまみえず、誓って二心無し」という思想にしばられ、杜十娘も同じだが、実現できないことをしている。

また、その「百寶箱」は彼女個人のものである。それは万金以上の価値を持っているが、「従良」という希望に向かっていってしまう。

箱中韞藏百寶、不下萬金。將潤色郎君之裝、歸見父母、或憐妾有心、收佐中饋、得終委托、生死無憾。誰知郎君相信不深、惑於浮議、中道見棄、負妾一片真心。

人間の感情、夫婦の愛情など、いずれも金銭で買うものではない。杜十娘は数年の遊女生活で貯めた万金でも、万能なものではない。ゆえに、二人の愛情の結末をしている。

ii 『玉堂春落難逢夫』の小道具 — 鏡と金銀首飾器皿

玉姐將鏡于拆開、各執一半、日後為記。玉姐説：“我將金銀首飾器皿、都與你拿去罷——玉姐は將に鏡を半分ずつ分けて、二人とも半分ずつ持ち、後ほど、再会する時の証拠と為す。また、玉姐は、私は、これらの金銀首飾器皿などをあげます。全部受け取ってください。と言った。

以上、「日後為記」は再会できると予説。その次、「器皿」は日常の容器の総称である。一般庶民たちの日常生活用の食器が金銀製品ではないことから、この物語において、この小道具を選んだ意味はこれから一般庶民のような日常生活ができる、つまり、団円できることを予説している。

iii 『範鰍兒雙鏡重圓』の小道具——鴛鴦寶鏡

オシドリは仲のよい夫婦の象徴として扱われ「おしどり夫婦」という言葉もあるほどだが、子育ては他のカモ類と同じくメスが行き、繁殖期ごとに別の相手と結ばれる。繁殖期以外ではオスとメスは別行動である。一年ごとにオスはパートナーを替えるので、喩えに使われるほど仲がいいというわけではない。中国語でも「鴛鴦」はつがいを象徴する言葉で、男女同時に使うもの（例：鴛鴦枕）や二つが一つになったもの（例：鴛鴦茶）にこれを冠しているものがある。

この物語には、「鴛鴦寶鏡」は幾つかの箇所姿を現すが、三つの大事な点ある。

「鴛鴦寶鏡」は結納の品となる。

希周有祖傳定鏡、乃是兩鏡合扇的。清光照徹、可開可合、内鑄成鴛鴦二字、名為“鴛鴦寶鏡”、用為聘禮。

二人が離れる際、「鴛鴦寶鏡」に対して夫妻が再会できるように祈る。

順哥道：‘鴛鴦寶鏡’、乃是君家行聘之物、妾與君共分一面、牢藏在身。
他日此鏡重圓、夫妻再合。

また、感情の証。

承信道：“此鏡朝夕隨身、不忍少離”。

以上によって、この物語の小道具にオシドリという動物の名称を使う意図は二人が団円できることを予説している。

iv 『宋小官團圓破氈笠』の小道具 — 破氈笠

氈笠はフェルトの帽子であるが、笠は草で編んだものであり、雨が降る時使うものである。この物語において、小道具として「破氈笠」の姿が現す場面は、

宜春取舊氈笠看時、一邊已自綻開。宜春手快、就盤捨上拔下針線將綻處縫了 — 宜春はその古い氈笠を取ってみると、あるところがもう破れた。すると、すばやく針と糸でなおした。

この段で大事なポイントは「破」という文字である。二人の婚姻が一時破れられ、自らなおさないといけないと予説している。宋小官は劉翁に棄てられ、宜春は何回も自殺しようという行為で父母の再婚させようとする行為と闘う。これは自ら婚姻を直す過程である。主人公である宋小官は再びその破氈笠を手に入れるのは、二年後になってしまった。

次早、錢員外起身、梳洗已畢、手持破氈笠于船頭上翻復把玩。劉翁啓口而問道：“員外、看這破氈笠則甚？” — 翌日の朝、錢員外（即ち、宋小官）は起きて、髪をすき顔を洗って終わってから、手でその破氈笠を持って、船頭のところで何回繰り替え看るところで、劉翁が理解

できず、員外、このなぜずっとずっとこの破氈笠を看るのかと、聞いた。

この間劉翁とその家族は誰も、その破氈笠を棄ててなかった。従って、夫妻が団円できることを予説している。

v 『白玉娘忍苦成夫』の小道具 — 夫妻両方の片方靴

白玉娘は夫と小道具を交換する際、話をした。

玉娘將所穿繡鞋一只、與丈夫換了一只舊履、道：「後日倘有見期、以此為證。萬一永別、妾抱此而死、有如同穴。」

靴は日常生活中、極めて普通な物であり、毎日人に使われている。二人が離れてから、毎日それを使うことで、必ず相手を思う。即ち、実際は、二人は離させられたが、相手に対する思いが存在すること、つまり、再会できることを予説している。

vi 『蘇知縣羅衫再合』の小道具 — 羅衫

羅衫は羅（うす絹）は搦み織りを用いた、目の粗い絹織物の一種。もともと羅とは鳥や小動物などを捕獲するための網を意味する言葉だったが、絹で織った網のような薄物を指す言葉にもなった。

ここで、羅衫を小道具として使う意図は二つあると考える。その一つは、悪人を捕る。もう一つは、家族の全員はきっと団円できることを予説している。小道具と主人公を結ぶ瞬間の様子を見に行こう。

鄭氏將自己貼肉穿的一件羅衫脱下、包裹了孩兒 —

鄭氏は羅（ら）という薄い絹の肌着を脱いで赤ちゃんを包む。

「肌着を脱ぐ」というのは肉親を離れることを意味する。だが、肌着は糸で織り上がったものである。糸はものとの間を繋げる機能が持ち、ゆえに、母子が団円できることを予説している。

その次、

老婆婆取出一件不曾開折的羅衫出来相贈、說道：“這衫是老身親手衫是老身親手做的、男女衫各做一件、卻是一般花樣。女衫把與兒婦穿去了、男衫因燒了領上一個孔。老身嫌不吉利、不曾把與亡兒穿、至今老身收著。今日老身見了郎君、就如見我蘇雲一般。郎君受了這件衣服。”
— お婆さんはおろしたての羅衫を箱から出して、継祖に贈与して、「この羅衫は私の手作りものです。その際同じ物二枚を作りました。婦人服を息子の嫁に着させましたが、男性服は衿のところに火で穴があいたので、縁起がよくないと考え、息子に着させなかったのです。今まで保存しています。今日は彼方様と出会い、なま息子と会うような感じを気がしますから、この羅衫を受け取ってください。」と言った。

この段に二つの注意するべき点がある。「一つの穴があき、縁起がよくない」は何時か不幸な事が起きると暗喩する。お婆さんの長男とその嫁は悪人に殺されたこと、次男は他郷に死んでしまったことが発生した。「今まで保存しています」は家族と団円することを予説している。

vii 『蔣興哥重會珍珠衫』の小道具 — 珍珠衫

主人公である蔣興哥は先祖から伝わる貴重な品物を妻に管理させた。それでは、彼の願望は現実のものとなるか否か以下のように予説される。

興哥便起身收拾、將祖遺下的珍珠細軟、都交付與渾家收管。

妻である王三巧は主人の願望を破ってしまった。

婦人便去開箱、取出一件寶貝、叫做“珍珠衫”、遞與陳大郎道：“這件衫兒、是蔣門祖傳之物、暑天若穿了他、清涼透骨。此去天道漸熱、正用得著。奴家把與你做個記念、穿了此衫、就如奴家貼體一般。

蔣興哥の願望は破られたが、修復できるか否かについては以下のような形で予説されている。

陳大郎一心祇想著三巧兒。朝暮看了這件珍珠衫、長吁短嘆。老婆平氏心知這衫兒來得蹊蹺、等丈夫睡著、悄悄的偷去、藏在天花板上。

平氏の行為は、この物語の小道具と主人公が再会可能、と予説している。

viii 『權學士權認遠鄉姑 白孺人白嫁親生女』の小道具 — 紫金鈿盒

この物語はその小道具の「音」を取る。即ち、漢字の諧音功能（漢字の発音が同じ）により、「盒」は「合＝合わせる」と同音である。そして、そのもの自体も本体と蓋をあわせてはじめて、一つのものになるのであり、一部分のみならば完璧なものとは言えない。

翰林扯開蓋、取出紙包來、開了紙包、又細看那鈿盒、金色燦爛、果是件好東西。顛倒相來、到底只是一個蓋。想道：“這半扇落在那里？且把來藏著、或者湊巧有遇著的時節也未可知。”

「湊巧有遇著 — 偶然に出会うかもしれない」は權學士が誰かと縁を結ぶことを予説している。

ix 『莽兒郎惊散新鶯燕 謔梅香認合玉蟾蜍』の小道具 — 玉蟾蜍

「蟾蜍」＝「蛙」は良く鳴くことで有名である。特に求愛行動にかかわって大きな鳴き声を上げるものが多くあり、世界各地で古くから注目される。この物語にしている小道具として使う意図は蛙という動物の生理機能を利用している。ゆえに、二人の縁が結ばれることを予説している。

鳳生と素梅は「父母の命、媒人の言」をする前に、自ら終身の愛を決めた。まず、二人の相手に対する熱愛を詩文で詠う。

鳳来儀から、

几回空度可怜宵、誰道秦樓有玉蕭！咫尺銀河難越渡、宁交不瘦沈郎腰
素梅が心が動く。そして、鳳来儀はまた、詞を一首贈る。

木落庭皋、樓閣外、彤云半擁。偏則向、淒涼書舍、早將寒送。眼角偷
傳傾國貌、心苗曾倩多情。問天公、何日判佳期、成歡寵？

素梅が返事する

自古貞姬守節、俠女怜才。兩者俱賢、各行其是。但恐遇非其人、輕諾寡信、俠不如貞耳。与君為鄰、幸成目遇、有縁与否、君自揣之！勿徒調文琢句、為輕薄相誘已也。聊此相復、寸心已盡、無多言。

それから、二人は詩文で誓う。

鳳生開了箱子、取出一個白玉蟾蜍、乃是他中榜之時、母舅金三員外与他作賀的、是件古玩。今將來送与素梅作表記。寫下一封書、道：
承示玉音、多關肝膈。儀雖薄德、敢負深情？但肯俯通一夕之歡、必當永失百年之好。謹貢白玉蟾蜍、聊以表信。荆山之産、取其堅潤不渝；
月中之象、取長團圓無缺。

素梅は幾つの文字を書き終わって、指から一つの金の指輪をぬいて玉蟾蜍に対する返礼の進物として彼に贈る。

徒承往復、未測中心。擬非夜談、各陳所愿。因不為投梭之拒、亦非效逾牆之徒。終身事大、欲訂完盟耳。先以約指之物為定、言出如金、浮情且戒、如斯而已！未附一詩

試斂听琴心、來訪听蕭伴。為語玉蟾蜍、情光今夜滿。

以上、九つの物語はいずれもの小道具が「予説」という叙事機能を持つ。だが、その表現方法は異なる。次の表で示す。

篇名	小道具	表現方法	予説の内容
杜十娘怒沉百寶箱	百寶箱	ものの機能制限	願望達成できず
玉堂春落難逢夫	鏡と金銀首飾器皿	字、詞の派生する意味を取る	願望達成
範鰍兒雙鏡重圓	鴛鴦寶鏡	動物が持つ特性	願望達成
宋小官團圓破甌笠	破甌笠	字、詞の派生する意味を取る	願望達成
白玉娘忍苦成夫	夫妻両方の片方靴	物が持つ特性	願望達成
蘇知縣羅衫再合	羅衫	物が持つ特性と贈与者の思い	願望達成
蔣興哥重會珍珠衫	珍珠衫	登場人物と結ぶ際の場面、セリフ	願望達成
權學士權遠遼鄉姑 白孺人白嫁親生女	紫金鈿盒	漢字の諧音機能	願望達成
莽兒郎惊散新鶯燕 謔梅香認合玉蟾蜍	玉蟾蜍	動物が持つ生理機能	願望達成

「予説」という叙事機能は『史記』と『左伝』によく運用される。『史記』は相術及び人物の行為などを以て、予説する。『左伝』の場合はそれと異なる。その方法は大勢である。例えば、占い、天文の状況など。『史記』と『左伝』の予説叙事機能は後世の文学に深く影響を与える。「三言二拍」も例外ではない。に対して、別のテーマでそのシリーズの作品の予説叙事機能を検討しよう。

結び

本稿にはプロップの登場人物が 31 の機能を持つ説を用いて、「三言二拍」の「離合集散」物語の構造を分析したが、留意しておかなくてはいけないのは、これがあくまで魔法昔話という分野（主に龍殺しか、王族からの難題タイプの物語とその派生タイプの物語）の昔話を基本として機能分類をしたものであり、その他のタイプは基本的には考慮外であること、アファナ

ーシェフのロシア昔話をベースとしていることである。特に後者に関しては、次の3つの事に気を付ける必要がある。

- ① それがロシアという国の土壤に合う形になっている。
- ② その反面、他の昔話の選集に比べると、筋の改変が比較的行われておらず、またアフナーシェフ自身もオリジナルに気を付けて採集していたという事。グリム童話に関して言うと、彼ら兄弟は類話から良いところだけを切り貼りし、時には話が繋がるように芸術的な作り変えをしている。
- ③ 中国の民間説話は、その時代の歴史を映し、一般庶民の日常生活の様子を反映してはいるが、戦いを含む話自体が概ね少なく、魔法昔話というジャンルが確立していない事もあるため、プロップの説を直接適用しても大きな効果が期待できない。

だが、本稿で挙げた九つの例には、『杜十娘怒沉百宝箱』と『玉堂春落難逢夫』は「主人公と敵対者が野外で戦う」機能があるが、それ以外は、ほぼ家庭内部での闘いが行われているにすぎない。そこで、プロップの説を援用して、中国の物語を分析するために、「家庭内部の闘い」を機能の一つのバリエーションとして捉え、「H0」という記号を新たに付け加えた。もっと多くの物語資料の検討を行っていけば、機能がさらにいくつか増える可能性が存在すると考える。

中国の短篇小説も「三言二拍」だけではない。また民間の物語に視野を広げれば無数の物語が存在する。従って、プロップの説を用いて分析を行うことにより、中国の物語の構造的特徴を明らかにするのみならず、中国の土壤が育んだ物語固有の機能を見出す可能性も十分にあると思われる。そのことによって、人類共通の物語の構造と、アジア或いは中国固有の物語構造を新たな地平において研究することが可能になっていくと信じるものであるが、それはこれからの作業に委ねたい。

本稿のテキスト：

『馮夢龍全集』上海古籍出版社，1987年。

凌濛初『初刻拍案驚奇』上海古籍出版社，1985年。

凌濛初『二初刻拍案驚奇』上海古籍出版社，1985年

『昔話の形態学』ウラジーミル・プロップ著；北岡誠司，福田美智代訳
白馬書房，1987年。

『Morphology of the folktale』by V. Propp; translated by Laurence Scott; with an introd. by Svatava Pirkova-Jakobson University of Texas Press, c1968。

参考文献

論文

小方孝、堀浩一、大須賀節雄『物語生成システムのための物語構造の分析
と物語生成過程の検討』『認知科学』Vol.3 (1996) No.1, p.72-109。

小方孝『拡張文学理論－概念、方法、試行－』『認知科学』Vol.8 (2001)
No.4, p.05-416。

小田淳一『情報生物学モデルによる民話研究について』『認知科学』Vol.8
(2001) No.4, p.335-342。

佐藤晴彦氏論文：

1、〈古今小説〉における馮夢竜の創作-1-言語的特徴からのアプローチ
『東方学』通号 72, p.81~96, 1986/07 東方学会

2、〈醒世恒言〉における馮夢竜の創作-1-言語的特徴からのアプローチ
『神戸外大論叢』39(6), p.19~40, 1988/11 神戸市外国語大学研究所

3、〈醒世恒言〉における馮夢竜の創作-2-言語的特徴からのアプローチ

- 『神戸外大論叢』41(4), p.1~23, 1990/09 神戸市外国語大学研究所
- 4、〈警世通言〉における馮夢竜の創作--言語的特徴からのアプローチ
『神戸外大論叢』43(2), p.1~17, 表3枚, 1992/09 神戸市外国語大学研究所
- 5、〈古今小説〉における馮夢竜の創作(改稿)--言語的特徴からのアプローチ
『神戸外大論叢』44(1), p.1~19, 表3枚, 1993/09 神戸市外国語大学研究所
- 6、《古今小説》各巻の成立をめぐって--Hanan氏説の検討
『神戸外大論叢』47(1~4), p.227~241, 1996/06 神戸市外国語大学研究所

注

注1: 馮夢龍 1574-1645、字は猶龍、号は姑蘇詞奴。また龍子猶、墨カン齋主人などと号した。江蘇省呉県の人。崇禎三年(1630)、貢士に任用された。のち、福建の寿寧県の知県となった。明が清に滅ぼされると、節に殉じて死んだ。『三言』、『平妖伝』、『古今談概』、『笑府』など。

注2: 凌濛初 1580-1644 字は玄房、号は初成。また即空観主人とも称した。浙江省烏程の人。上海県尉・知県代理などを経て、征州通判に上った。李自成の軍が迫ったとき、悲憤のあまり血を吐いて死んだという。『二拍』、『顛倒因縁』。

注3: 本稿に言われる小道具はプロップの「呪具」と同じ意味である。プロップは次のように説明されている。

呪具として用いられるのは、(1) 動物(馬・鷲その他)(2) 呪力をもった助手たちが中から出てくるもの(馬の出てくる火打石。若者

たちの出てくる指輪) (3) 呪力をもったもの(棍棒・刀・グースリ・珠その他)。(4) 主人公の身にじかに与えられる性質(力・動物に変身できる能力など)。主人公に与えられるこれらのモノを(さしあたりは仮称として)、呪具と呼ぶことにします。

プロップ『昔話の形態学』p.68 以下の注、ページ数のみ記入。

注 4 : 同注 3、p.3-4。

注 5 : 同注 3、p.35。

注 6 : 同注 3、p.35-40。

注 7 : 同注 3、p.41-101。

注 8 : 同注 3、p.125-132。

注 9 : 同注 3、p.199-289。

注 10 : 同注 3、p.84。

注 11 : 小方孝『プロップから物語内容の修辞学へ ― 解体と再構成の修辞学を中心』(p.536)

『認知科学』Vol.14 (2007) No.4, p.532-558。(日本認知科学会 編)

注 12 : 小方孝, 堀浩一, 大須賀節雄 『物語生成システムのための物語構造の分析と物語生成過程の検討』p.76

『認知科学』Vol.3 (1996) No.1, p.72-109。(日本認知科学会 編)

注 13 : 同注 3 と同。

注 14 : 同注 3、p.103-109。

注 15 : 同注 3、p.68-78。

附録：登場人物の行動領域

プロップの登場人物の行動領域によって、登場人物がそれぞれの役に立つ。分かりやすいように、「三言二拍」の「離合集散」物語の登場人物の役割を図式しよう。

篇名	人物	登場者	具体的行動領域	具体的機能 (行為)
蔣興哥重會珍珠衫	加害者 (敵対者) villain	陳大郎 王婆	A, a, U. η 、 θ 。	王三巧を姦す。小道具を奪う。病気で死ぬ。
	贈与者 (補給係) donor/provider	蔣興哥の先祖、また蔣興哥	D。	家の貴重品を王三巧に管理させる。
	助手 helper	呉県令 (王三巧の二番目の旦那)	M, N, T。	蔣興哥は合浦の牢獄から救われる。
	探し求められる人物 sought for person	平氏	H, K, W。	平氏は蔣興哥の珍珠衫を持つ。又、還す。結婚。
	派遣者 dispatcher	王三巧の父親	G。	二回娘が嫁に行かせる。
	主人公 hero	蔣興哥 王三巧	A, a, D, E, W。 U。	被害、小道具が渡す、又亡くす。結婚、妾となる。
	ニセ主人公 false hero			
白玉娘忍苦成夫	加害者 (敵対者) villain	張万戸	A, U。	主人公を離縁させる。不満で死ぬ。
	贈与者 (補給係) donor/provider	白玉娘	D, G, T, W。	小道具を渡す。復縁。
	助手 helper	程恵	G, L, N, T。	主人公の復縁するために、行動する。
	探し求められる人物 sought for person	白玉娘	M, Ex, Q, U, W。	威脅を受ける; 誓いを立つ; 恩を報う; 復縁。
	派遣者 dispatcher			
	主人公 hero	程万里	C \uparrow 、F、G、 \uparrow 。	小道具を獲得; 逃げる; 移動; 官吏となる; 回帰; 復縁。
	ニセ主人公 false hero			
蘇知縣羅衫再合	加害者 (敵対者) villain	徐能	A, L, U。	加害する; 不当な要求; 処罰を受ける。
	贈与者 (補給係) donor/provider	蘇の母親 お坊さん	D, F。	主人公に試す; 小道具を贈与。
	助手 helper	陶公 尼さん	G, K。	蘇知県を救う; 三家村へ連れて行く。鄭氏を救う; 送出。
	探し求められる人物 sought for person	実の父母	a, M, Ex, Q, W。	死にそう; 場所を移動; 団円。
	派遣者 dispatcher	徐用、朱お婆、尼さん	B。	鄭氏を解放、送出。
	主人公 hero	徐継祖 (又名、蘇泰)	C \uparrow 、E、F、T。	京行く; 小道具を獲得; 変身。
	ニセ主人公 false hero	徐能、徐継祖のニセ父親	L _c 。	不当な要求する。

範鯨兒雙鏡重圓	加害者（敵対者） villain	戦乱	A。	主人公を離縁させる。
	贈与者（補給係） donor/provider	範希周	D。	小道具を贈与。
	助手 helper	順哥の父親	G、T、W。	主人公を救う；復縁させる。
	探し求められる人物 sought for person	範希周 順哥	M、Q、Ex、U、 W。	小道具を合わせる；認識、復縁。
	派遣者 dispatcher			
	主人公 hero	範希周 順哥		
	ニセ主人公 false hero	賀承恩	↓、T。	回帰；正体露見。
宋小官團圓破靴笠	加害者（敵対者） villain	劉公	A、U。	主人公を離縁させる；恥かしいと感じる。
	贈与者（補給係） donor/provider	劉公、和尚さん	D、F。	主人公を試す；小道具を贈与。
	助手 helper	王公	G、K、N、T。	主人公が復縁するために、行動する。
	探し求められる人物 sought for person	妻である劉宜春、また、且那宋小官	I、K、J、M、Ex。	父母と闘い；勝利、欠如が消す；団円。
	派遣者 dispatcher			
	主人公 hero	宋小官	A、a、B、E、F、 W。	加害をうける；死にそう；小道具を獲得；団円。
	ニセ主人公 false hero	銭員外偽宋小官	G、W。	劉公の船を再び登る；団円。
玉堂春落難逢夫	加害者（敵対者） villain	遊女屋の女将一秤金皮氏と亭主亡八	A、H、U。	主人公を離縁させる；主人公と闘い；処罰を受ける。
	贈与者（補給係） donor/provider	玉堂春	D、F。	主人公を試す；小道具を贈与。
	助手 helper	王銀匠金哥	G、K、T。	主人公を送出；情報を伝える。
	探し求められる人物 sought for person	玉堂春 王公子	G、W。	場所を移す；再会；復縁。
	派遣者 dispatcher			
	主人公 hero	玉堂春 王公子	A、G、↓、I、W。	加害を受ける；闘い；勝利；移動；回帰；復縁。
	ニセ主人公 false hero			

杜十娘怒沉百寶箱	加害者 (敵対者) villain	遊女屋の女将、李甲、孫富	A、H、U。	主人公を離縁させる；主人公と闘い；処罰を受ける。
	贈与者 (補給係) donor/provider	謝月娥	F。	呪具を贈与。
	助手 helper	柳遇春	M。	金を集める。
	探し求められる人物 sought for person			
	派遣者 dispatcher			
	主人公 hero	杜十娘	A、H、I。	加害を受ける；呪具を獲得；闘い；勝利。
	ニセ主人公 false hero			
白孺人白嫁親生女 權學士權認遠郷姑	加害者 (敵対者) villain			
	贈与者 (補給係) donor/provider	白孺人	D、F。	主人公を試す；呪具を贈与。
	助手 helper	妙通	T、M、N、W。	変身；難題；解決；結婚。
	探し求められる人物 sought for person	丹桂	a、J、W。	婚約者が亡くす；標をづける；結婚。
	派遣者 dispatcher			
	主人公 hero	權學士	C↑、W。	出立；結婚。
	ニセ主人公 false hero	權學士ニセの留哥。	C↑、W。	出立；結婚。
扶梅香認合玉蟾蜍 芥兒郎驚散新鶯燕	加害者 (敵対者) villain			
	贈与者 (補給係) donor/provider	金員外	F。	呪具を贈与。
	助手 helper	龍香、媒人	K。	呪具を確認。
	探し求められる人物 sought for person	鳳来儀梅香	Q、W。	身分を確認；結婚。
	派遣者 dispatcher	楊お婆さん	B。	主人公を送出。
	主人公 hero	鳳来儀梅香	W。	結婚。
	ニセ主人公 false hero			